

CAD情報

作業時間を1/3に短縮してお客様の「現状で満足」を打開 案件獲得を実現する『ACPEプログラム』

『AutoCAD』を使いこなせば企業の生産性は確実にアップする。ところが、『AutoCAD』の機能の中で実際に使われているのは、わずか5%~10%に過ぎず、本来なら1時間で作成できる図面を3時間以上もかかっている実情があるという。オートデスクでは、こうした問題を解消するために、『AutoCAD』の本来の機能を活用するだけで、設計に要する作業時間を劇的に短縮できる『ACPEプログラム』を始動させ、大きな反響を呼んでいる。

Autodesk®

基本機能を使うだけで 企業の生産性が格段にアップ

製造・建築など、さまざまな分野で生産性向上に役立つ『AutoCAD』を導入しているにもかかわらず、その機能を活かしてきていないことが非常に多い。例えば、表を作成する場合、1本ずつ線を引いているなら『AutoCAD』の「表オブジェクト」を使えば時間短縮になる。行と列の数を指定するだけで瞬時に表が完成する。また、文字を1行ずつ作成していくと修正作業などに手間がかかるが、『AutoCAD』の「マルチテキスト」を使えば、複数行のテキストも手間なく書ける。しかし、こうした便利な機能があることを知らないがために、多くの設計者は無駄な労力を費やしているのだ。

そこでオートデスクでは、『AutoCAD』および『AutoCAD LT』の利用者を対象にした生産性向上プログラム『ACPE(AutoCAD Productivity Enhancement)』を立ち上げ、製品本来の機能を有効活用することで企業の生産性向上を支援する活動をスタートさせた。

「ACPE活動の一環として、セミナーに参加するエンドユーザ様から1,200枚の図面をお預かりして評価しました。

その中から800枚を精査し、図面データを分析したところ、「表作成」「注釈」「図記号」「印刷設定」「図枠設定」といった5つの項目の機能がさききちんと活用すれば、設計にかかる作業時間を3分の1に短縮できることが判明したので」とソリューションエキスパートの清水卓宏氏は語る。

実際、一つの項目に関するやり方を変更しただけで、1枚の図面を作成する時間が60%も削減できた企業もある。特に数百枚の図面を作成するようなプロジェクトでは、その効果は極めて大きい。「専門的な知識を要する高度な機能ではなく、基本的で当たり前の

機能を活用するだけで、企業の生産性が格段に向上します。そのためセミナーの参加者の反応は非常にいいです。自分たちも変わらなければ、と目の色が変わります」と清水氏は話す。

チーム全体の最適化を支援する CADマネージャの育成が重要

『ACPEプログラム』では、『AutoCAD』の機能を60%習得する「ビギナー」、80%使いこなせる「エキスパート」、チーム全体の生産性向上を支援する「マネージャ」の3段階の目標を設定し、それぞれに応じたトレーニングやコンサルティングなどを提案できる。

■作図時間が1/3になる 作業時間短縮の基本操作『BIG5』

1.表の作成

線分とテキストで作成された表の編集は時間がかかるが、表オブジェクトを利用することで編集の作業が簡単にできる。

2.注釈(テキスト、寸法のスタイル設定)

異尺度対応を使用すれば、スタイルの統一や画層管理の手間が省け、かなりの時間削減効果が見込まれる。

3.図記号(ブロック登録、ブロックの共有)

設計チームで共通に使用する図記号は、ツールパレットに配置すれば操作は簡単になり、ライブラリの標準化も維持できる。

4.印刷設定(テンプレート、ページ設定)

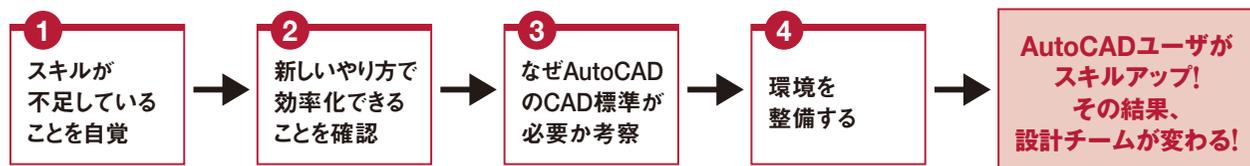
印刷対象の図面がレイアウト図面であれば、一回の操作で複数のファイルへの操作を介在せず、まとめて印刷できる。

5.図枠ブロック(テンプレート、図枠ブロックの属性定義)

シートセットマネージャなら、属性定義を含む表題欄、図枠ブロックは、シートセット内で使用するブロックへの変更が簡単にできる。

作業項目	一般的な図面の作製時間	ACPE方式の図面作製時間	時間短縮率
表の作成	47分30秒	17分57秒	62%
異尺度の注釈記入	514分56秒	276分4秒	46%
図記号の配置	59分28秒	18分30秒	69%
図面の印刷	38分40秒	1分0秒	97%

■ACPEの進めかた



「企業の生産性を高めるには、チーム全体の最適化が必要です。今後は、その推進役となるCADマネージャの育成がとても重要だと思います。また外部に設計を委託する場合は、『こういう方法で図面を仕上げてください』と指示が出せるように設計業務を標準化しておくことも重要です」と清水氏は指摘する。

オートデスクでは、パートナー様向けのACPEコンサルタントという認定資格制度も開始した。その資格を持っていれば、エンドユーザ様先で『AutoCAD』を活用した生産性向上の具体的な提案などが行えるようになる。もちろん、資格を取得していなくても、オートデスクのコンサルタントが同行してエンドユーザ様の生産性向上を一緒に支援することもできる。

このACPEプログラムを活用したい

パートナー様は、大塚商会やオートデスクに気軽に問い合わせさせていただきたい。

「ACPEのセミナーを実施した後に、今日聞いた便利な機能を使いたいが、『AutoCAD』のバージョンが古いので使えないとエンドユーザ様から相談されることがあります。その場合はアップグレードの提案をすることでビジネスにつながります。また、エンドユーザ様のバージョンが統一されていないと設計業務の標準化が図れないので、その場合は最新版のネットワークライセンスの導入をお勧めしています。ただし、商談ありきではなく、エンドユーザ様から既存の設計環境を改善したいと相談されてから提案することが肝要です」と清水氏は語る。

まずは、エンドユーザ様に『AutoCAD』の機能を活用しきれていない実情を自覚してもらい、そのうえで業務改善につ

ながる提案をすれば、エンドユーザ様の信頼は確実にアップする。『ACPEプログラム』をエンドユーザ様との信頼関係を深めるためのきっかけづくりに役立てていただきたい。BP



オートデスク株式会社
ソリューションエキスパート
マネージャ
清水 卓宏氏

ACPE | AutoCAD AutoCAD LT Productivity Enhancement

ACPEによる改善率の試算



ACPEによるコスト削減の試算



ACPE の第1段階の5つの改善項目のうち、4つの項目、①表の作成、②異尺度の注釈記入、③図記号の配置、④図面の印刷について、典型的な図面を対象として実測し、コスト削減効果を試算した。この結果、各項目において最高99.5%、平均52%の改善効果が得られ、合計約1,200時間が短縮される想定となった。これをコストに換算すると約240万円のコスト削減効果となる。